

### 運用実績

基準価額 16,561円

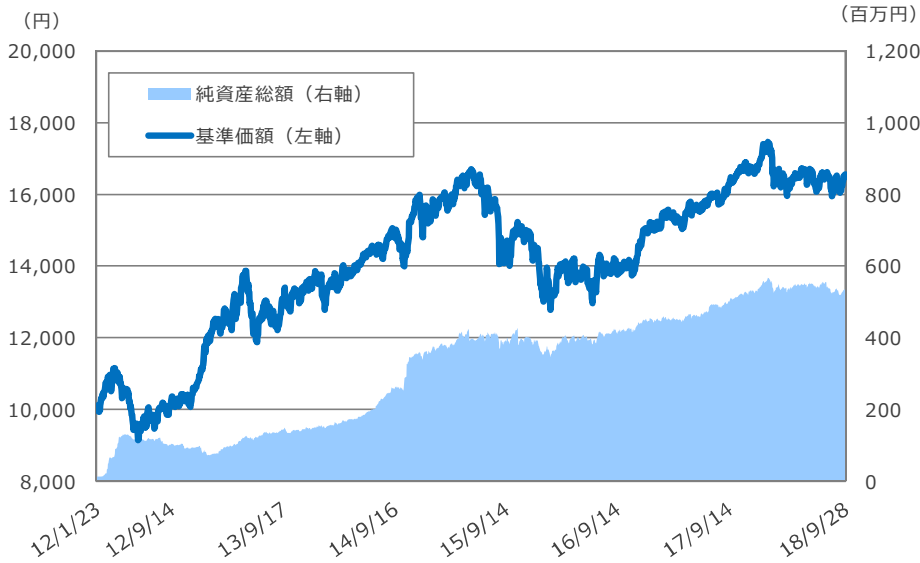
前月末比 +239円

純資産総額 537百万円

※基準価額は信託報酬控除後の値です。

ファンド設定日：2012年1月23日

### 基準価額等の推移



※基準価額は、信託報酬控除後の値です。

### 資産構成 (単位：百万円)

ファンド	金額	比率
投資信託証券	525	97.8%
為替ヘッジ評価損益	-1	-0.3%
現金等	13	2.5%

※比率は純資産総額に対する割合です。

※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

### 通貨エクスポージャー

通貨	①外貨建資産	②為替ヘッジ	通貨エクスポージャー (①-②)
米ドル	73.2%	19.5%	53.7%

※比率は純資産総額に対する割合です。

※為替ヘッジ比率は純資産総額に対する予約外貨評価額の割合です。

※通貨エクスポージャーとは、外貨建資産のうち、為替変動のリスクを受ける割合を示します。

### 期間収益率

設定来	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年
65.61%	1.46%	2.40%	1.45%	1.14%	17.46%	28.54%

※期間収益率は税引前分配金を再投資したものととして算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

### 収益分配金 (税引前) 推移

決算期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	設定来累計
決算日	2014/9/16	2015/9/14	2016/9/14	2017/9/14	2018/9/14	
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

※収益分配金は1万口当たりの金額です。

## 組入投資信託証券の状況

信託約款に基づき、2016年3月に投資対象ファンドまたは投資資産を変更いたしました。

株式  
債券  
オルタナティブ

投資対象	投資信託証券の名称	通貨	組入比率
国内株式	上場インデックスファンド T O P I X	円	9.2%
先進国大型株式	シュワブU.S.ラージキャップETF	米ドル	5.9%
先進国大型株式	バンガード・FTSE・ヨーロッパETF	米ドル	1.6%
先進国大型株式	iシェアーズ MSCI パシフィック（除く日本）ETF	米ドル	0.4%
新興国大型株式	バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF	米ドル	22.5%
先進国小型株式	バンガード・スモールキャップETF * 1	米ドル	2.4%
新興国小型株式	バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF	米ドル	2.4%
国内債券	MUAM 日本債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	円	5.7%
先進国債券	MUAM 外国債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	円	9.7%
新興国債券	バンガード・米ドル建て新興国政府債券ETF	米ドル	13.9%
ヘッジファンド	★ IQ ヘッジ マルチストラテジー トラッカーETF	米ドル	2.9%
コモディティ	★ iシェアーズ S&P GSCI コモディティ・インデックス・トラスト	米ドル	3.0%
コモディティ	★ iシェアーズ ゴールド・トラスト	米ドル	13.5%
先進国リート	シュワブU.S.リートETF	米ドル	4.7%

★ヘッジファンドとコモディティを投資対象としているETFに対し、為替ヘッジを高位に行います。

※組入比率は純資産総額に対する割合です。

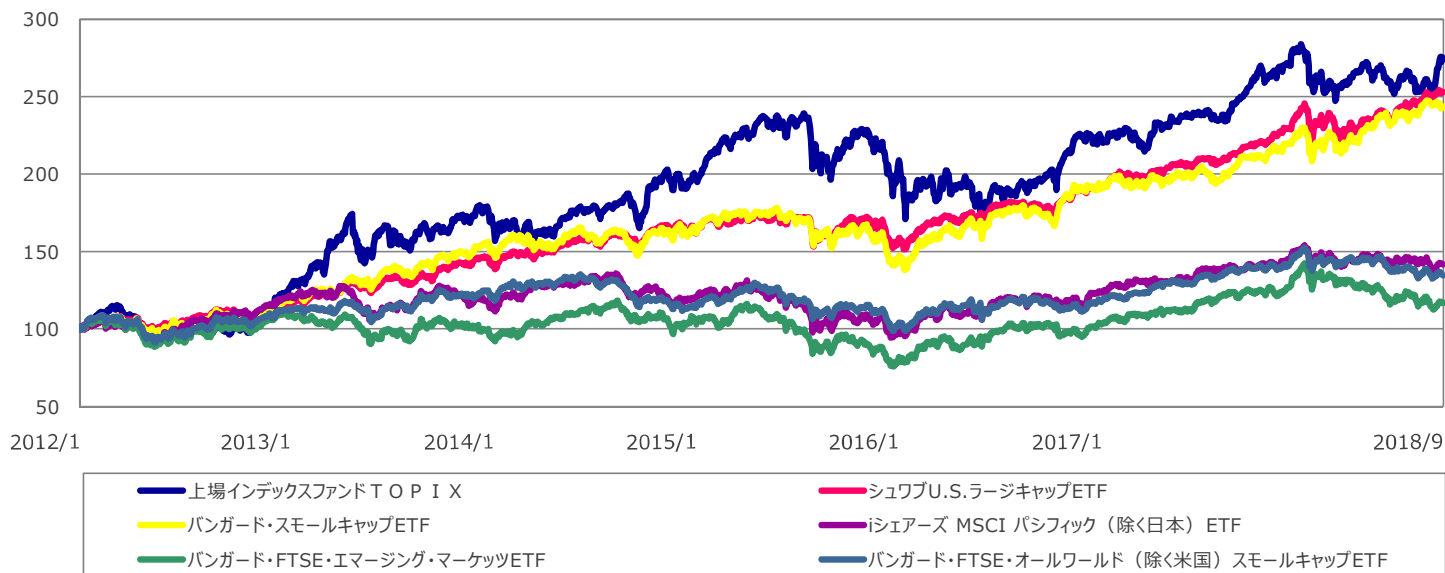
※各比率の合計が四捨五入の関係で投資信託証券（組入資産の状況）の比率と一致しないことがあります。

\* 1 バンガード・スモールキャップETFは先進国小型株式のみの組入れです。

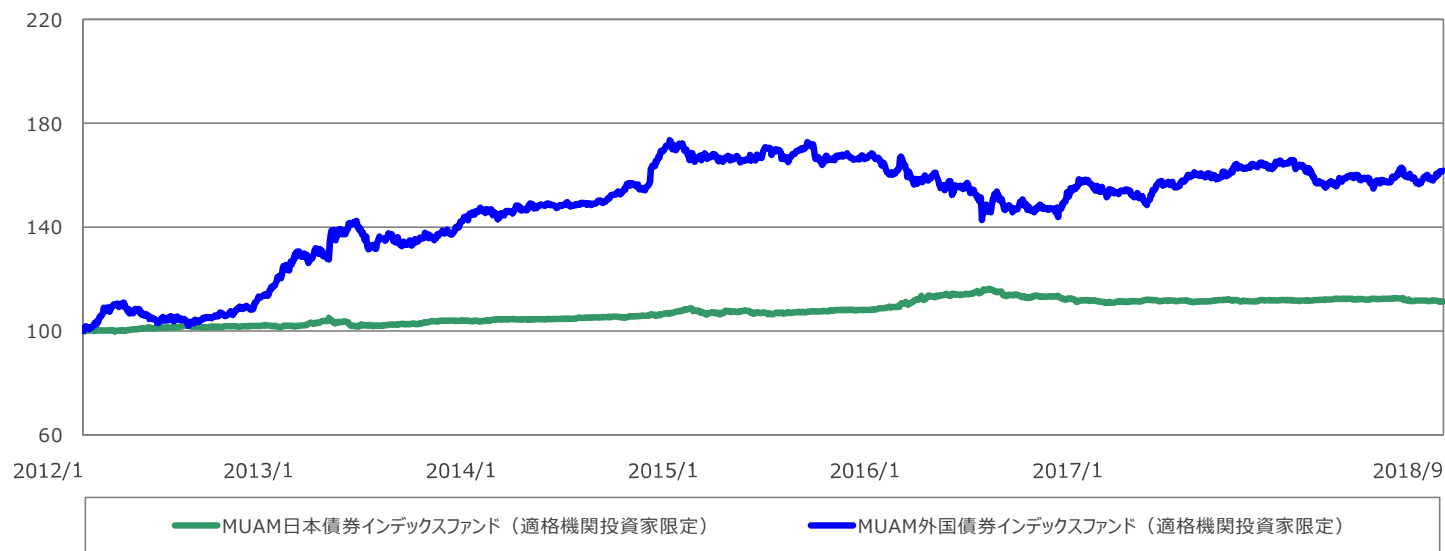
＜ご参考＞ - 組入投資信託証券の推移 -

※本ファンドの設定日を100として指数化（分配込み）したものです。

株式



債券



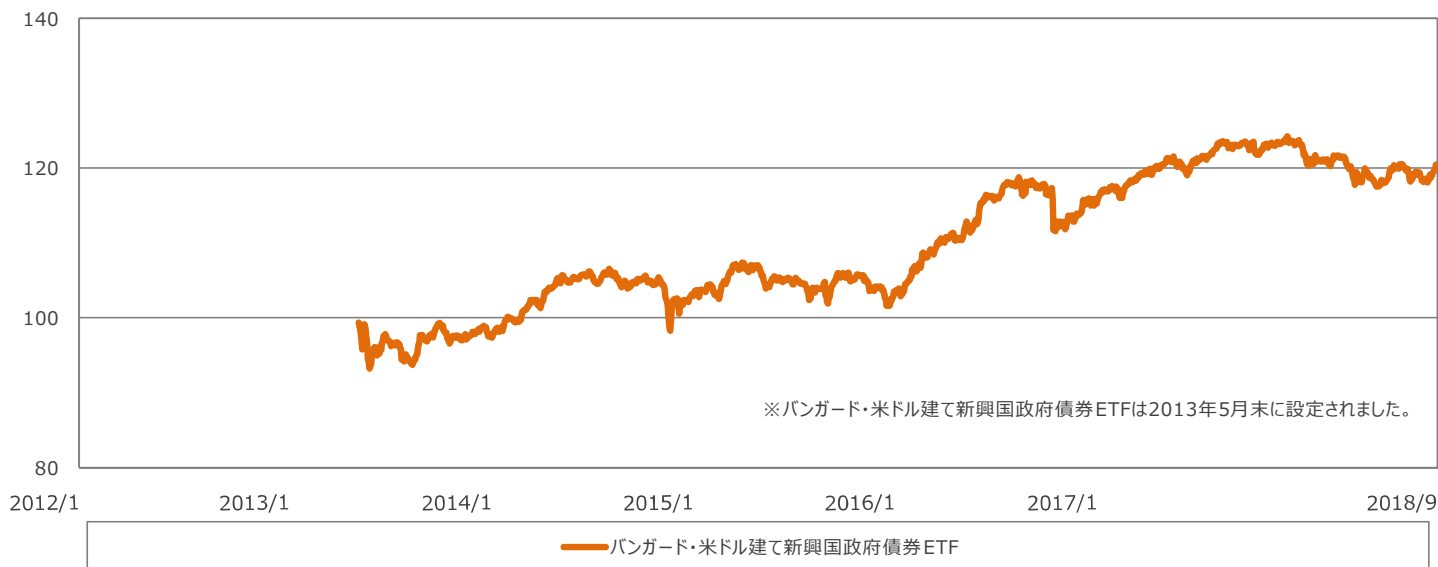
※2016年3月に上記の組入投資信託証券へと見直し及び入替えを行いました。

※なお、全ての投資信託証券が本ファンドの投資対象とは限りません。

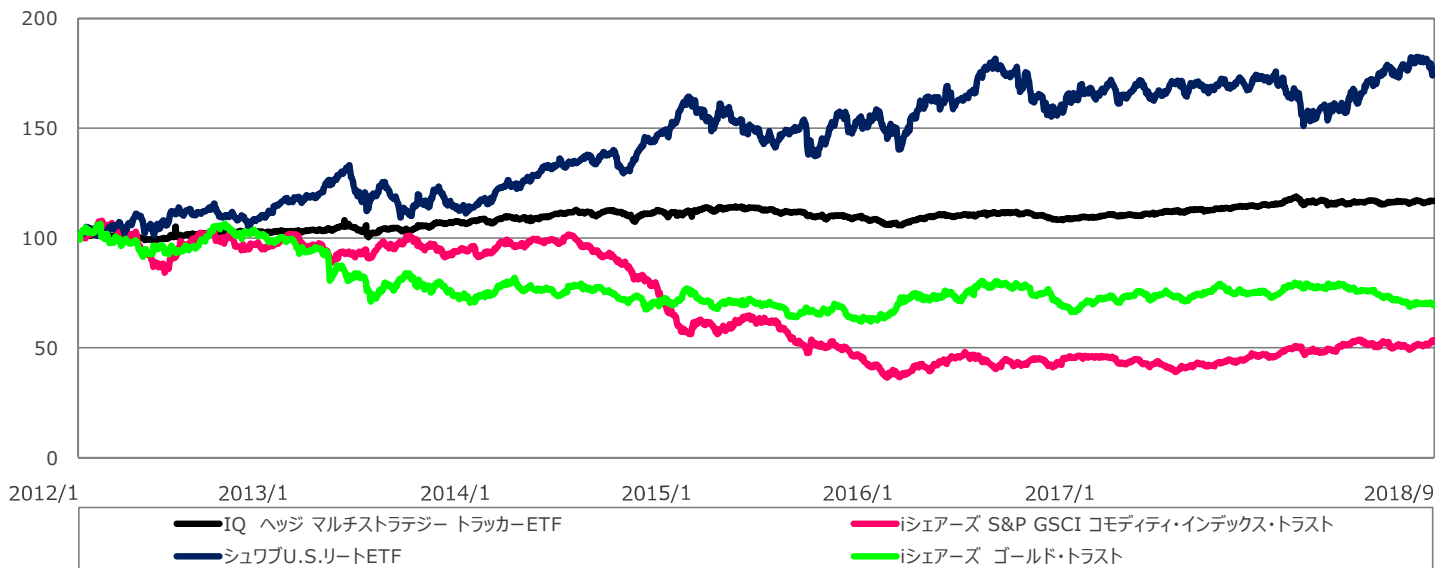
＜ご参考＞ - 組入投資信託証券の推移 -

※本ファンドの設定日を100として指数化（分配込み）したものです。

債券



オルタナティブ



※2016年3月に上記の組入投資信託証券へと見直し及び入替えを行いました。

※なお、全ての投資信託証券が本ファンドの投資対象とは限りません。

## 投資環境及びコメント

株式	日本	日経平均株価は前月末比+5.49%と4カ月連続の上昇となり、東証株価指数（TOPIX）は同+4.72%と2カ月ぶりの上昇となりました。前半は、台風、地震と天災が相次いで発生したことや、米国で半導体市場の先行き懸念が広がったことを受けて下落した後、トルコの中央銀行が市場予想を上回る利上げを発表し、新興国の通貨安懸念が後退したことなどから上昇しました。後半は、米国の景気先行指数の上昇が好感されたことや、中国の関税政策柔軟化の検討で米中貿易摩擦に対する懸念が和らぎ、上昇しました。月末の終値は、日経平均株価が24,120.04円、TOPIXは1,817.25ポイントと前月末比で上昇しました。
	先進国 (除く日本)	ダウ工業株30種平均（ダウ平均）が前月末比+1.90%上昇した一方、ドイツのDAX指数は▲0.95%の下落となりました。前半は、米国は上昇した反面、欧州は下落しました。米国では、米中貿易摩擦の対話が再開されるとの期待や、半導体などのハイテク株の反発を受けて上昇しました。欧州では、貿易摩擦懸念に加え、新興国経済の先行き懸念により下落しました。後半は、米国、欧州ともに上昇しました。米国では、米中貿易摩擦を巡る懸念が和らいだことや、米長期金利の上昇を受けて金融株が上昇したことから、21日にはダウ平均は26,743.50ドルと過去最高値を更新しました。欧州においても、米中貿易摩擦に対する過度な警戒感が後退し、投資家心理が改善したことを背景に上昇しました。
	新興国	新興国株式市場は、米中貿易摩擦懸念や新興国通貨安への懸念などから軟調な展開で始まりました。中国における8月財新製造業購買担当者景気指数（PMI）の発表や、ゲームの特別税課税計画の浮上なども嫌気されました。中旬においても、引き続き米中貿易摩擦懸念から調整局面となり、中国をはじめアジア圏では年初来安値を更新しました。その後、米国のハイテク関連株の上昇を好感し、反発局面を迎えました。また、米国が中国製品に10%の追加関税を賦課すると発表すると、悪材料出尽くしとの見方が広がりました。下旬では、米連邦公開市場委員会（FOMC）を控えてやや上値が重い推移が続きましたが、原油が上昇基調で推移し、73ドル台と、約3年8カ月ぶりの高値水準をつけたことを背景に、石油関連株を中心に買いが入る展開となりました。
債券	日本	新発10年物国債利回りは、前月末の0.110%から0.125%へ上昇（債券価格は低下）しました。前半は、日銀による国債買い入れオペが月間ベースでは小幅な減額に落ち着くとの安心感に加え、米国を巡る貿易戦争拡大の懸念から円高・株安が進み、利回りが低下する場面もあったものの、概ね0.110%程度での推移となりました。後半は、米10年国債利回りが上昇し、高水準に達したことへの警戒感から売りが進み、さらに日銀が21日に実施した国債買い入れオペで超長期ゾーンの買い入れを減額したことから、金利の先高警戒感が強まり利回りが上昇し、0.125%で月末を迎えました。
	先進国 (除く日本)	米国10年国債利回り、ドイツ10年国債利回りはともに上昇（債券価格は下落）しました。前半は、米国では8月の米雇用統計において、賃金の前年比上昇率が9年ぶりの大きくなったことや、非農業部門雇用者数の伸びが加速したことを受けて利回りは上昇しました。欧州では米国債利回りの上昇につられたほか、ブレグジット（英国の欧州連合離脱）やイタリア財政を巡る思惑からリスク選好が上向いたことから、利回りは上昇しました。後半は、米国では過度な米中貿易摩擦への懸念が後退したことや、米株高を受けて上昇しました。欧州では、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁が、24日にブリュッセルの欧州議会において、ユーロ圏の基調的なインフレ率に比較的に強い上昇が見込まれると述べ、来年終盤の利上げ実施見通しに向け順調に進んでいることを示唆したことから、利回りは上昇しました。

投資環境及びコメント

債券	新興国	<p>新興国債券市場は、通貨安の落ち着きとともに資金が流入（債券価格上昇・利回り低下）となりました。新興国通貨は足元で小康状態となっています。大幅利上げを決めたトルコリラに加え、資源国通貨が反発したほか、日米株価の上昇などにより金融市場がリスク・オンとなり、新興国通貨・資産を下支える状況となる一方、先進国（米国）の景気拡大とドル金利の上昇が新興国の重荷となりました。新興国債券は外部環境に大きく影響を受ける状況は脱していないとみられています。</p>
オルタナティブ		<ul style="list-style-type: none"> <li>●原油は、熱帯低気圧「ゴードン」がハリケーンとなり勢力を強めながらメキシコ湾岸に接近したことを背景に様子見ムードが強まっていたものの、石油関連施設のある地域からそれたことから石油関連施設が再開し始め、原油価格は低下しました。中旬ではリビア国営石油会社本部が武装勢力に襲撃されたこと、米国の原油在庫減少が確認されたこと、ハリケーン「フロレンス」の接近などが材料となり、下旬では中東における地政学的な混乱、石油輸出国機構（OPEC）と協調減産に参加する非OPEC主要産油国の共同閣僚監視委員会（JMMC）で増産方針の見送りが材料となり、原油価格は大きく上昇して月末を迎えました。</li> <li>●金は、前月末比で下落しました。持ち高調整の取引が中心となり、レンジ内での取引が続いていましたが、下旬にFOMCが始まり、結果を待つ中、ドル高とともに金価格は下落しました。その後、市場予想通りに米国の追加利上げが発表されたものの、FOMCの政策金利見通しに修正はなく、概ね市場の予想通りの結果であったため、ドルは上げ幅を縮小し、金価格も下げ止まる展開となりました。</li> <li>●リートは、7カ月ぶりの下落となりました。前半は、8月の米供給管理協会（ISM）製造業景況感指数が良好な結果となったことや、8月の米雇用統計において平均時給が大きく上昇したことなどから、米10年国債利回りが上昇したことを背景に下落しました。後半は、米国中期債の入札が相次ぐなか、需給に対する警戒感から米10年国債利回りが上昇したことから下落しました。</li> <li>●ヘッジファンドは、前月末比で概ね横ばいとなりました。</li> </ul>
為替		<p>ドル／円は111円台前半でスタートした後、米中貿易戦争の次のターゲットが日本に向けられたことや、北米自由貿易協定（NAFTA）において近日中に合意に達する見込みがない見通しを発表したこと等を背景に円が買われ、110円台半ばまで円高・ドル安が進行しました。中旬には、トランプ米政権が対中関税を段階的に引き上げることを決定したことから、米中間の貿易戦争に対する過度な警戒が後退しました。また、トルコリラが落ち着きを取り戻し新興国市場が安定推移となると、ドル買いが進行し112円台前半まで円安・ドル高が進行しました。後半に入ると、対中追加関税の発動で円高・ドル安進行となる一方、良好な米経済指標や日米通商交渉において日本の自動車に追加関税が課されないことが確認されると円安・ドル高が進み、結局113円後半で月末を迎えました。</p>

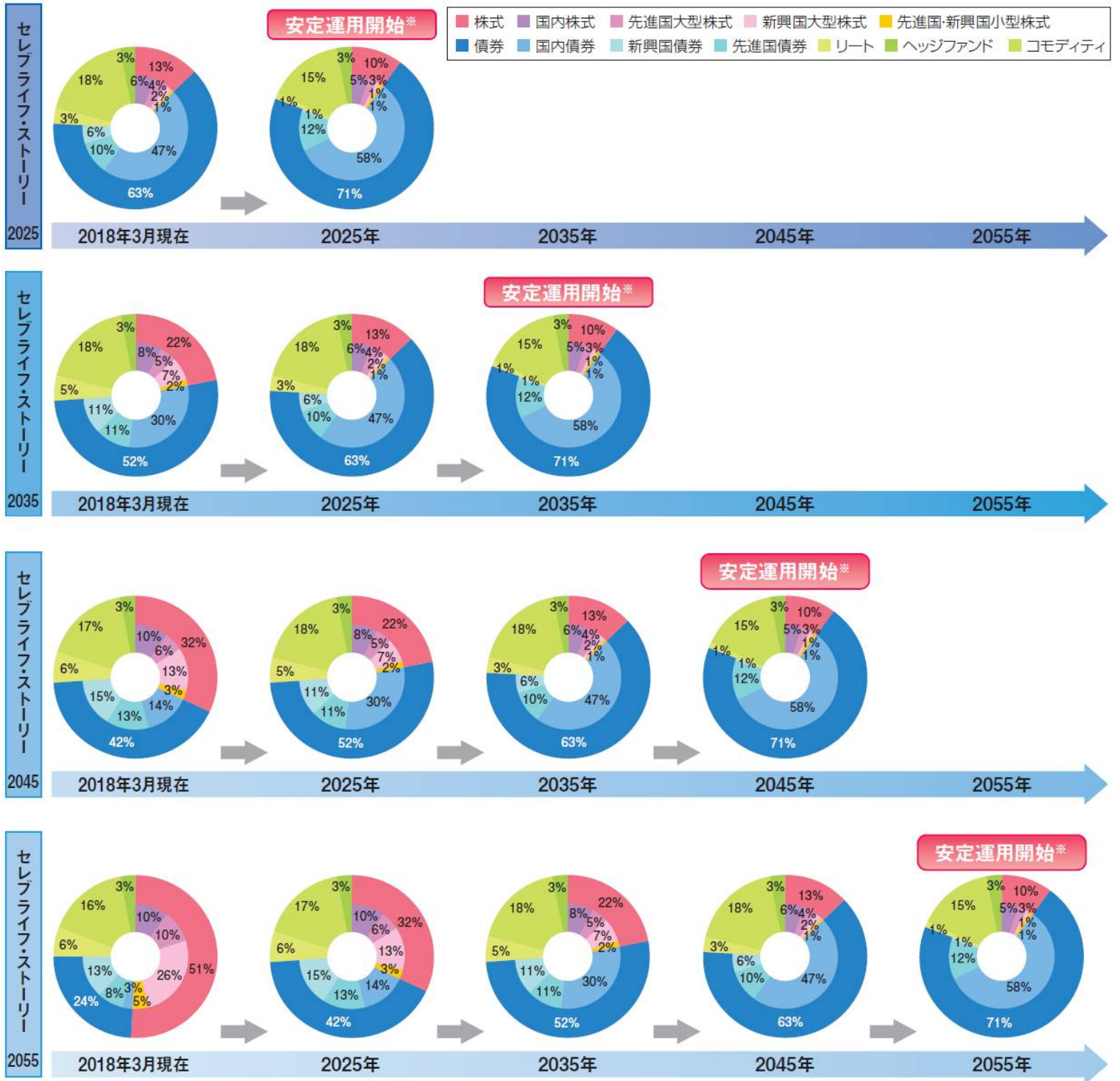
※上記コメントの一部は、モーニングスター株式会社のマーケットレポートを基に、SBIアセットマネジメント株式会社が作成しています。



追加型投信／内外／資産複合

### 基本投資割合

※セレブライフ・ストーリー-2015は2015年9月15日より安定運用を開始しています。



※各ファンドのターゲット・イヤーの決算日の翌日を「安定運用開始時期」とします。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができないことがあります。

追加型投信／内外／資産複合

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

本ファンドは、主として投資信託証券（投資対象ファンド）への投資を通じて、株式・債券・オルタナティブ資産（ヘッジファンド、コモディティ、リート（不動産投資信託））など値動きのある金融商品等に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産には為替変動リスクもあります。したがって、本ファンドは投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。本ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。本ファンドの基準価額の変動要因としては以下のものがあります。ただし、基準価額の変動要因は以下に限定されるものではありません。

### 主な変動要因

資産配分リスク	資産配分リスクとは、複数資産への投資（資産配分）を行った場合に、投資成果の悪い資産への配分が大きかったため、投資全体の成果も悪くなってしまいうリスクをいいます。本ファンドは、投資対象ファンドへの投資を通じてわが国及び海外の株式・債券・オルタナティブ資産（ヘッジファンド・コモディティ、リート（不動産投資信託））・短期金融商品に資産配分を行います。配分比率が高い資産の価値が下落した場合や、複数の資産の価値が同時に下落した場合、本ファンドの基準価額はより大きく影響を受け損失を被ることがあります。
株価変動リスク	一般に株価は経済・政治情勢や発行企業の業績等の影響を受け変動しますので、投資対象ファンドが組入れる株式の価格が変動し、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
為替変動リスク	為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
債券価格変動リスク	債券（公社債等）は、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して価格が変動します。また、債券価格は金利変動による影響を受け、一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落します。これらの影響により債券の価格が変動した場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
リート（不動産投資信託）の価格変動リスク	一般にリート（不動産投資信託）が投資対象とする不動産の価値及び当該不動産から得る収入は、当該国または国際的な景気、経済、社会情勢等の変化等により変動します。リート（不動産投資信託）の価格及び分配金がその影響を受け下落した場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
ヘッジファンドに投資するリスク	本ファンドが投資対象とする「IQ ヘッジ マルチストラテジー トラッカーETF」は「IQ ヘッジ マルチストラテジー インデックス」をベンチマークとして値動きするため、当該インデックスのヘッジファンドマネージャーが採用する戦略等の影響を受け、これらによって、本ファンドの基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。
コモディティ投資リスク	一般にコモディティ価格は商品の需給や金利変動、天候、景気、農業生産、政治・経済情勢及び政策等の影響を受け変動します。これらにより、本ファンドの基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。
カントリーリスク	投資対象ファンドが組入れる金融商品等の発行国の政治・経済・社会情勢の変化で金融・証券市場が混乱し、金融商品等の価格が大きく変動する可能性があります。一般に新興国市場は、市場規模、法制度、インフラなどが限定的なこと、価格変動性が大きいこと、決済の効率性が低いことなどから、当該リスクが高くなります。
信用リスク	投資対象ファンドが組入れる金融商品等の発行体が経営不安や倒産等に陥った場合に資金回収ができなくなるリスクや、それが予想される場合にその金融商品等の価格下落で損失を被る可能性があります。また、金融商品等の取引相手方にデフォルト（債務不履行）が生じた場合等、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
流動性リスク	投資対象ファンドが組入れる金融商品等の市場規模が小さく取引量が限られる場合などには、機動的に売買できない可能性があります。また、保有する金融商品等が期待された価格で処分できず、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。



## 投資リスク

### その他の留意点

- ・本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- ・投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

### リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各種委員会を設けて行っています。

## 委託会社、その他関係法人

委託会社	S B I アセットマネジメント株式会社（信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社（ファンド財産の保管・管理等を行います。）
販売会社	※最終頁をご参照ください。（受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。）

## 本資料のご留意点

- 本資料は、S B I アセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。
- 投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。
- 投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。
- お申込みの際には必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

追加型投信／内外／資産複合

## お申込みメモ

購入単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。）
購入代金	販売会社の定める期日までにお支払いください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目にお支払いします。
購入・換金申込 受付不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの商業銀行のいずれかの休業日にあたる場合には、購入・換金の受付を行いません。
申込締切時間	原則として午後3時までに販売会社が受けた分を当日のお申込みとします。 なお、受付時間を過ぎてからの申込みは翌営業日の受付分として取扱います。 ※受付時間は販売会社によって異なることありますのでご注意ください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金（解約）の申込の受付を中止すること及びすでに受けた購入・換金（解約）の申込の受付を取消す場合があります。
信託期間	無期限（設定日：2012年1月23日）
繰上償還	以下の場合等には、信託期間を繰り上げて償還となる場合があります。 ・各ファンドについて、受益権の口数が3億口を下回るようになった場合 ・ファンドを償還させることが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	毎年9月14日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。 ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 ※税制が改正された場合には、変更となる場合があります。

追加型投信／内外／資産複合

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込金額に3.24%（税込）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た金額とします。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して0.3%を乗じて得た額を、ご換金（解約）時にご負担いただきます。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

ファンドの日々の純資産総額に年0.4752%（税抜：年0.44%）を乗じて得た金額とします。運用管理費用（信託報酬）の配分は下記の通りとします。なお、当該報酬は、毎計算期間の6ヵ月終了日及び毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。

		2015	2025	2035	2045	2055
運用管理費用 （信託報酬）	運用管理費用（信託報酬）	年0.4752%（税抜：年0.44%）				
	内 委託会社	年0.216 %（税抜：年0.2 %）				
	販売会社	年0.216 %（税抜：年0.2 %）				
	訳 受託会社	年0.0432%（税抜：年0.04%）				
	実質的に投資対象とする 投資対象ファンドの信託報酬等 <sup>※1</sup>	0.2006%	0.2128%	0.2170%	0.2198%	0.2017%
	実質的な負担 <sup>※2</sup>	0.6758%	0.6880%	0.6922%	0.6950%	0.6769%

投資顧問（助言）会社への報酬は委託会社報酬の中から支払われます。

※1 基本投資比率で運用された場合の信託報酬率（年）であり、実際の組入れ状況により変動します。

また、投資対象ファンドの信託報酬の改定や投資対象ファンドの変更等により変動する場合があります。

※2 各ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加味した、投資者の皆様が実質的に負担する信託報酬率（年）になります。

### その他費用 及び手数料

ファンドの監査費用、有価証券等の売買委託手数料、先物取引やオプション取引等に要する費用、海外における有価証券等の保管費用等本ファンドの投資に関する費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用等が信託財産から差引かれます。なお、これらの費用は、監査費用を除き、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。

投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## お知らせ

信託約款の規定に基づき、家計や市場の構造変化等を考慮し、原則として年に1回実施する基本投資割合の変更を行いました。

追加型投信／内外／資産複合

## 販売会社一覧

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第44号	○	○		○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商)第20号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第195号	○	○	○	○
カブドットコム証券株式会社*	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第61号	○	○		

■ 販売会社では、受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。

\* カブドットコム証券株式会社は、「セブライフ・ストーリー-2015」以外のお取扱いとなります。

ファンドのご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡しますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。